

九条の樹 63号

2016年10・11月



東久留米「九条の会」ニュース

発行：東久留米「九条の会」

代表者 古田足日・連絡先 鈴木 Tel. 042-473-9489

<http://members3.jcom.home.ne.jp/higashikurume9/>

メール：higashikurume9@jcom.home.ne.jp

日本国憲法 第9条

- ①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
- ②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

どこでも九条の会が元気！

～九条の会全国交流会に参加して～

九月二十五日、千代田区の明治大学で開かれた九条の会第6回全国交流会に参加しました。全体会の冒頭、小森陽一さんは「改憲勢力が国会で3分の2を超え、南スーダンで自衛隊員が駆けつけ警護の任務に就こうとしている。緊迫した情勢の中での交流会。大いに議論しましょう」と呼びかけました。呼びかけ人代表として澤地久枝さんがあいさつ。また新たに12人の世話人が紹介されました。その中で元朝日新聞記者の伊藤千尋さんは「会場を見渡すとみなさん、元気ですなえ」と思わず感嘆するほどの熱気でした。午後の分散会でも同じでした。70名ほどで会場の教室がいっぱいでしたが、誰もが自分たちの経験を発言したくうずうずしていました。



とくに参議院選挙で統一候補を立てて戦った青森、長野、岐阜、栃木などからの発言は、九条の会が野党や他団体の取りまとめ役になったり、草の根の会が各地で活動を展開して、保守王国を揺るがせたり勝利した経験が面白おかしく語られ、どこも衆院選に向けてやる気満々でした。

印象に残ったのは前橋の会で、会として戦没者調査をしたとの報告でした。遺族会の人にも教えてもらい、町別にいつどこで、何歳で亡くなったかを表にして公民館祭りで展示したそうです。調査によると亡くなったのは終戦直前の一年半に集中していて、平均死亡年齢は二十六歳だそうです。東久留米でも出来たらいいなと思いました。



青森五所川原九条の会の発言も印象深かったです。青森は戦前から北の守りの中心で大湊、弘前など陸海空、米軍がそろい、北朝鮮向けのレーダーなど軍事が集中していること。県で最も貧しい下北半島には原発も集中しているそうです。県議会は自民党が独占している地域で、参院選統一候補は岩手出身の女性候補、「南部もの」はいまだに差別される土地柄で「自民の半分取ればいいな」と言っていたのが当選したので「みんなたまげた」との話に大爆笑でした。

(事務局 鈴木 信太郎)



民主主義を あきらめない

佐藤学さん講演会



八月三十日開かれた小山・幸町九条の会、東久留米九条の会共催の講演会の内容です。

どう見る選挙結果

小池百合子の意味不明さ

都知事選は野党側が惨敗したわけですが、一番は政党の共通はできたが市民運動ができなかった。それと特殊性があります。劇場型選挙でした。ニュースやバラエティー番組などがそれにのっかった。自民党をつぶすと言った小泉選挙と小池も同じだった。敵を作って民意を吸収していく。自民党がダメならやめればいいのにやめない。こ

の意味不明さが吸引力があるんです。大阪維新と一緒です。今、ほとんどの人が政治に絶望しか感じていないのだと思います。そのうっぷんを集めたのです。その意味でヒトラーが出てきた時と似ている。そして「面白ければいい」ということ、これも大阪と似ています。今後こういう選挙をどう戦うのかを考えなければなりません。

参院選の結果について

改憲派が三分の二を超えました。実は3年前から改憲勢力が衆参とも8割を超えています。当時の民主党はほとんど改憲派だった。絶望的状况はもつと前にありました。世論調査でも憲法改正賛成派が多数でした。九条の会などが頑張ったことによつてじわじわ変えてきたのです。改憲派の民主党を大きく変えたのがこの一年半のたかいでした。民主党はどん底だったのが安保法国会で頑張ったじゃないですか。着実に前進したと思います。私なども絶望からの出発です。危機感です。

多くの学者もそうでした。シールズもそうです。福島第一原発事故での絶望的状况からの出発でここまでやつと来た。

政治状況を見るうえで3年前との比較が重要です。自民公明は76から70に減らしています。維新と心も減らして野党は28から44に増やしています。惨敗から持ち直したということです。参議院選挙は野党が前進です。31の全部の1人区すべてで統一です。史上初めてのことで、そして11人当選しました。3年前は一人区32ありましたがそこで野党は全部で2人しか当選しませんでした。そして比例では

民進党は前回の1.5倍、共産党はあまり伸びなかったが今までの比例票で過去最高得票です。統一候補ができて市民との共闘が実現すると本当に大きな変化が生まれました。これからの選挙はこうでしかありえない。

楽しくやれば投票率アップ

今後の選挙で考えなければいけないのは投票率です。あまり

伸びませんでした。野党が伸びたところは投票率も伸びたんです。「無党派層」というのは「政治に絶望し希望を見出せない人」そういう人に手が届いていないんです。一番政治に痛い目にあっている人たち、例えば学生です。学生の多くが保守化しています。ところが学生の半数が奨学金で苦しんでいる。高校から奨学金を受けていると大学卒業時に480万円です。これに3%の利子です。20年返済で合計1080万円の借金です。大学進学をあきらめた子もたくさんいます。

もう一つは市民と労働運動の連携です。労働者は全国でパートも含め約6千万人、約9割は未組織です。労働者全体のことを視野に入れながら、連合との連携を考える必要があります。集会などへの呼びかけと選挙です。

選挙法も問題です。市民が参加することを考えていないので、何かやろうとするとぜんぶ違反になる。見直しの運動を起こしたい。投票前2週間は学校

も会社も残業禁止で広場に縁台と屋台の店を出して、みんな政治の議論を自由にやる、お祭りにする。盛り上がりつつ面白くよ。候補者とも議論する。こういうことをやったら投票率上がると思う。オーストラリアではバーベキュー大会ですよ。楽しい選挙を考えたいけどいかがですか。(拍手)

山口二郎氏講演

6月11日開かれた「東久留米九条の会11周年のつどい」での法政大学教授山口二郎さんの講演要旨、第二回です。

●60年安保闘争と自民党政治

戦後民主主義は戦争に負けて自動的に始まったものではありません。敗戦から15年ほどの間、憲法、あるいは戦後日本の基本的原理を巡って、きびしいたたかいがありました。国家中心か、国民個人中心か、あるいは戦争か平和かなどの政治の原理をめぐる対立がずっとありました。右は改憲を唱え、革新勢力

は護憲平和を唱える、たたかいがあつてそのクライマックスが1960年の安保闘争でした。

私は60年安保は日本の民主主義を定着させるある種の民主革命であつたという評価をしています。60年安保は何だったのかという点、岸信介が憲法改定の一里塚として日米安保条約の改定を提案したんです。1960

年5月に衆議院で強行採決を行いました。それに対して危機を感じた多くの国民が反対運動に加わつて史上最大の反政府運動が起つたわけです。その結果は安保そのものは国会の数の力で成立してしまいましたが、岸はその混乱、アイゼンハワー訪日中止などの責任を取つてやめました。それとともに憲法改正の夢も消えました。

60年安保後の自民党は憲法に關しては政策転換をしました。憲法、特に九条に対しての国民の思いはとても強い、下手にいいれない、触れないでおこうということになったのです。いわば消極的護憲です。九条の枠内で自衛隊増強という路線を取り

ました。その後の自民党政権は憲法に手を付けなかつた点で評価できると思います。ベトナム戦争の時にアメリカに同調して参戦した韓国などと同じ道を取らなかつたのは憲法九条があつたからです。安倍政権は昨年の安保法制を作りましたが、アメリカが引き起こす戦争や対テロ戦争に「お前も手伝え」と言われたとき、安倍さんは断れないでしょう。自衛隊を出動させる危険が大です。

冷戦が終わつた後自衛隊が海外でPKOなどで人道支援などで出動していますが、これも九条が歯止めになっていました。

●安倍改憲と安保法制のねらい

ではなぜ安倍は去年安保法制、集団的自衛権行使を容認したのか。去年の今頃テレビで、安倍がなぜ安保が必要かなど説明していましたね。ホルムズ海峡の機雷封鎖されたとき除去するため、と言っていました。イランは国際社会復帰していません。アメリカ軍の艦船が在外日本を運んでくれる。その船を

自衛隊が護衛するというありえない話など、すべて破たんが明らかになっています。唯一国民がそうかもしれないと思つたのは、「日本を囲む安全保障環境の悪化」という口実です。中国が軍事力を増強している。北朝鮮が核開発をして危ない。これは私もそうだと思います。しかし、これらは個別的自衛権の話として集団的自衛権の話とは無縁です。

安倍がなぜこれを強引に進めたのか。安倍は日本の自衛隊が実戦に参加してはいけないことに劣等感を持っている。また日本の外務省の役人も「日本は海外で武力行使できないから外交の世界で影響力を持ってない。イギリス、フランスなどの国は大きな軍隊をもつて平気で武力行使する。国力が落ちても外交の世界で大きい顔をしている。日本も早く武力行使できる国になつて国連の常任理事国になりたい」と考えています。この安倍と外務省役人の二つの劣等感が一つになつて昨年の安保法制ということになったのです。

●安倍改憲のおそまつと世論

昨年の議論の中で明らかに
なったのは安部の歴史や立憲主
義に対する無知です。ポツダム
宣言を詳らかに読んでない。立
憲主義に対する無知も深刻で
す。国会での質問に答えて「憲
法で権力を縛る、というのは王
様が支配していた古い時代の話
で民主主義の現代には必要な
い」と答えました。民主主義の
時代こそ必要なのです。多数の
意思が間違ってもあります。

多数者の意思決定の上に憲法が
あつて、多数決でも憲法に反す
ることはできない、という決ま
りが必要です。これが立憲主義
の現代的意義です。為政者とい
えども上位の規範に従うとい
うのは現代国家の常識、基本的原
理です。

自民党の改憲草案を見ます
と、立憲主義はどこかに吹っ飛
んでいます。明治憲法でも伊藤
博文など憲法を作った人たちは
憲法の目的について「君主の権
力を制限し臣民の権利を保護す
るためだ」と説明しています。

自民党の改憲草案は全く前近代
的のです。さすがにこの様な安倍
の前のめりな改憲路線は国民の
危機感を招いています。

今年の5月の憲法記念日直前
の各紙世論調査を見ますと押し
なべて「憲法改正反対」の意見
が急増しています。例えば「朝
日」では安倍政権の改憲に賛成
26% 反対58%です。9年前第一
安倍政権の時は賛成40% 反対
42%とは全然違います。九条に
関していえば変えないほうが良
いは63から68に増えている。変
えたほうが良いは29から27に
減っています。憲法改正反対、
九条改正反対は国民の圧倒的世
論です。

●安保法制めぐるたたかい

昨年の安保法制をめぐるたた
かいは歴史に残るものです。私
が一番驚いた発見は憲法九条は
依然として年代を超えて訴求
力、アピールする力を持つてい
るということです。今から十数
年前、大江健三郎さん、加藤周
一さん、鶴見俊介さんらが「九
条の会」を立ち上げたとき、私

は九条はご老人の遺言みたい
な気がして寂しい気がしまし
た。(笑)、心配しましたが世代
を超えて受け継がれています。
ティーンズソウルという高校生
やシールズの若者も「九条守れ」
と言っている。

もう一つ、民主主義が一步進
んだ。議会、選挙だけではなく
市民が外に出て国会前に集まり
声をあげる、デモや集会で市民
が行動する、声を出すことがで
きました。

今や新しい政治的市民的文化
が生まれたと思います。シール
ズの人たちを見ていると共通す
るのは3・11震災、原発事故
を多感な時に見ている。被災者
に対する優しい思いやりを持つ
一方で、原発事故が示した日本
社会のだめさ、腐敗、無責任に
対して大変強いいきどおりを
持つていますね。ゆとり教育の
時代の子です。自分で答えを出
そうと考える子たちです。
公共的なことに関心を持ち、
自己の主張を述べることででき
る市民の登場です。(終)

《平和を考える本》

『「意地悪」化する日本』

(内田樹×福島みずほ×岩波書店)



思想家・内田と政治家・福島
が真剣に語り合ったとき、現代
日本を読み解くキーワードとし
て「意地悪」が浮上した。安倍
首相、前大阪市長・橋下徹のよ
うな「異論と対話する気のない」
権力者が架空のルサンチマン
(怨恨・憎悪・嫉妬などの感情)
をまき散らし、それに人々が共
振して社会全体の「意地悪」化
が進んでいる。

共同体というのは、メンバー
の中で最も弱い者が自尊感情を
持つて愉快地に生きられなければ
存続できない。

現在進行している反知性主義
と攻撃性の文化に対抗する方法
は？「正直・親切・愉快」な日
本を取り戻すには？ 真摯で柔
軟な対談は一読の価値がある。

(高田)